

重錘落下締固め工法

重錘落下締固め工法は、鋼(鋼+コンクリート)製の重錘をクレーンを用いて高所から地盤に繰り返し落下させる工法です。

地表面から打撃を加えることにより、地盤を深部まで締固め・強化することが可能です。

特長

高価な資材を必要とせず、単純な作業であるので、経済的な工法です。

岩砕、転石混じりの地盤、ごみ地盤など不均質な地盤にも対応できます。

防波堤や岸壁などの基礎捨石の締固め等にも利用できます。

施工手順

所定の高さより重錘を
地面に繰り返し落下

通常高さ:10~20m

仕上げタンピング、または
ブルドーザーにより打撃孔を整地

施工機械



重錘(25t)



フロントステータ式重錘施工機



打撃孔状況

施工実績

工事名	工期	施工場所	発注者	目的	改良層厚 / 対象面積
中電三隅地盤改良工事	94.11~95.3	島根県	中国電力(株)	タンク基礎地盤の強度増加	6.0~8.0m / 4,540m ²
箕沖埋立地減容化工事	94.12~95.9	広島県	福山市	埋立処分場の減容化	29,000m ²